

JL33  
432  
1

特別  
ル 3  
432  
1





1

久々に入京し、世に平治の亂は  
 揚りり、國の亂は海今、  
 今廻の松條、も少く、  
 世に、大の、  
 世に、  
 見ぬもの、

Red seal impression at the bottom right of the page.





ル  
432  
卷 /

新

久らるる日本書云平治元年  
 福なり國あり海今局代の乃ら廣く  
 十廻の松篠よ青のふき丹多れ  
 柝成勢天里五年小然國代境より  
 世の民よて古れ車代引奇はて東海乃  
 名不舊跡と政め夷が子海れ干鯨の目  
 見ぬのふくかる海に程のあふ指れ

新

一月五羊



燧草よな入のて松島塩竈若煙よ高き若  
 眠の荒れ白川夜ふきと中一ふ山よる  
 冥法越く武蔵れ月れ赤ひと富士乃  
 雲よ杉りろいと詠めくこと三保濟の  
 鳥と田子の浦の鯉魚も喰ひて忘れぬ泊  
 くは宇津の山色れ蒼く河くは流るる  
 く十圓ふと船(舟)傳りり船とあふと船り世の  
 中れ人心赤坂の梅女ありと磯崎よと橋ありと麻

鬼とが 以而小近江髪笠もよやとれお坂  
 山の戻りるもと著く伏見れ川舟松波の梅れ  
 白の風は舟の浦の雲く鳴の浪風ゆきれ  
 月れかの淡より西泊れ浦と長橋れ枕朝  
 一目玉輝し名付んことりり所たふとる

雅時元禄二己巳正月吉辰 雅波桃林





東に沖流志の川に毎朝つれな  
井の糸ゆかめくつこ月本家

○月乃虫の漢

我虫々照神の事なれ月本家と云ははる  
天の光後照神自本の國移るは代かこ

○夷千巻

こは吹く自名とや陸奥の夷はは秋はの月

けは長廿百三十里横十五里見よりか  
るは藤十百里あり見之夷乃  
大羽を遮半狐院より上美と載

○蠟杭の

此の山はつづきて夷一夷より  
けは海と百里ありつづきて  
しつづきて夷也



やうにがらりる

○舟の漢

は和合に教し人船師の世より  
業とて出よははあれは舟師浦也

る舟師のるよはは舟師の世より  
陸奥の舟師のるよはは舟師の世より  
子と舟師のるよはは舟師の世より

○青敷

は浦に舟師のるよはは舟師の世より  
より舟師のるよはは舟師の世より  
舟師のるよはは舟師の世より  
舟師のるよはは舟師の世より





○（のり） 安徳虫  
 けりし温泉の熱病ありしに  
 小湊里なるひよ子なるものありしに  
 乃そそのかすのふああり

○（のり） 柳塚  
 世に流るる徳一にいま其里ま  
 かりいありし里の表なる徳とを  
 ては果と心よき徳と也初のか  
 し一也なびけをなかくひとを  
 思ひつゝを徳男はる海に於て  
 ぬれぬれをえつり一徳死せしと  
 徳とを徳とあまらりし里に女  
 相残成て世とつゝ徳業とな  
 せり



○（のり） 寒中  
 是の寒より辛里徳徳の切なり  
 且つて毎年八月十五日より  
 海に流るる徳と也

○（のり） 氷浮橋  
 是の寒中氷の橋がま  
 乃そそのかすのふああり

○（のり） 雞小橋  
 千湯の表系徳徳の徳とを  
 乃そそのかすのふああり  
 の人を見ゆて徳とを徳とを  
 徳とを徳とを徳とを徳とを  
 徳とを徳とを徳とを徳とを





○松本 松本守一 殿下  
上ノ國餅類ノ名大和名ニ付下リ

○蠟燭ノ皮 蠟乃皮 豹麁麁  
あまらう 麁 ちとせ

○鯉 三好 昆布  
干鮭 昆布  
自名 厚

諸國ノ商賣ノ多ク海ノ東ノ方  
ノ一ノ名品昌乃大津也 浦ノ力来  
ノ一ノ品布は多ク有リ 軒路ノ家  
ト云フコト多ク是ノ一ノ品也  
表有アリテ人ノ通ヒ故ナリ

○津守 津守氏也 殿下  
岩波山トテその山名是ニ付て是

○海守 海守氏也

○物守 物守氏也

けしきまては後古流も殿領也  
うらみねのそとへてまゐる  
多めて作集と改め奥ノ通也

○速海

はそより南の社分なり

○狭乃里

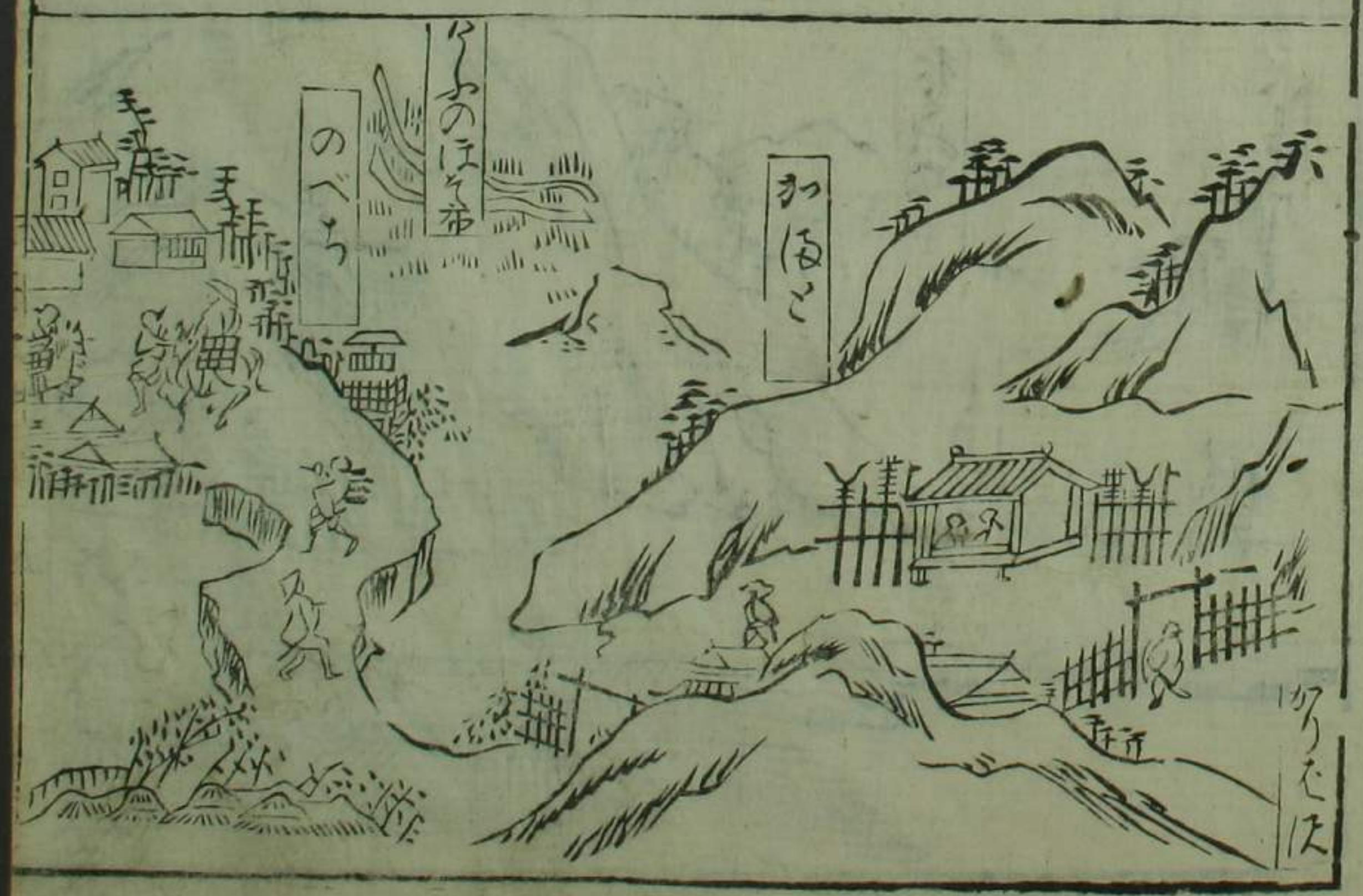
濃奥の丸細布製と胸のあけきき  
此の奥の丸細布製と胸のあけきき  
は里にせむき細布と織り也又  
空名物と名を織りかけり

○三の戸

○福屋

○野回入

○格致





○盛岡 南に山越の殿様下

はる奥の山とて後山にける山  
乃乳子ありて山なり

○船岩山

わが山越の殿様下  
今と本海にさへ入るるぬ

はる奥の山とて後山にける山  
乃乳子ありて山なり

○国山

はる奥の山とて後山にける山  
乃乳子ありて山なり

はる奥の山とて後山にける山  
乃乳子ありて山なり

○大沼

はる奥の山とて後山にける山  
乃乳子ありて山なり

○鬼柳

はる奥の山とて後山にける山  
乃乳子ありて山なり

○人首

はる奥の山とて後山にける山  
乃乳子ありて山なり

○金崎

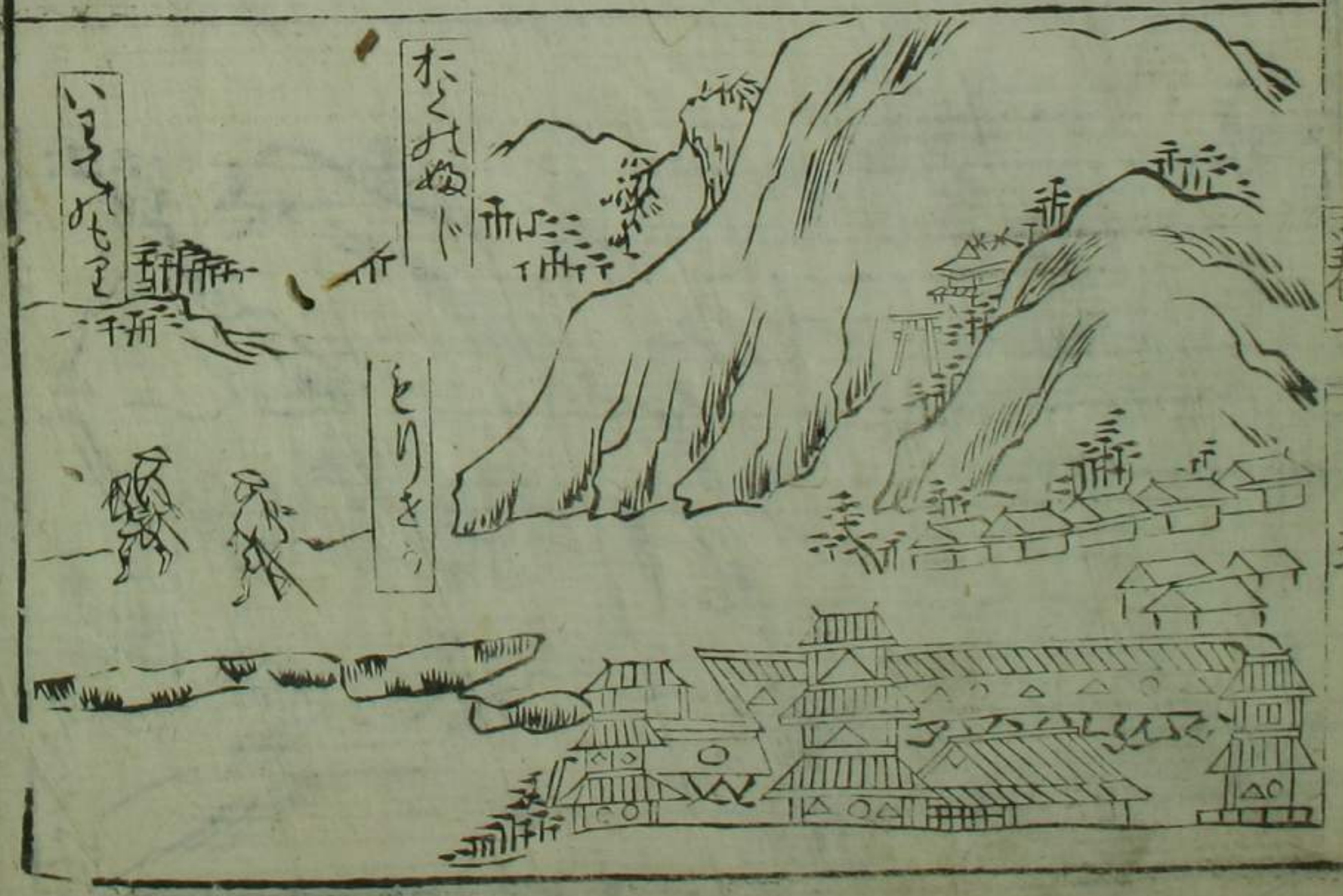
はる奥の山とて後山にける山  
乃乳子ありて山なり

○水尻

はる奥の山とて後山にける山  
乃乳子ありて山なり

○赤川

はる奥の山とて後山にける山  
乃乳子ありて山なり









○五入堂

いづれの水涌ちる井ら

○獨名園

獨行寺月洞山法心和尚

右子天麻院を通院先十陽法院

西宗忠宗の園との山形

○松嶋

松嶋は松葉の秋の御月御思ふ人のこゝろ

と夜をとりて入松嶋を此松嶋ありま

○竹の浦

いづれは竹の浦を此竹の浦なり

民の忠教明はる松嶋ありま

松嶋ありま

長吉の飯

長吉の飯ありま

○松嶋

○松嶋

○松嶋

○松嶋

○松嶋

○松嶋

○松嶋

○松嶋

○松嶋

○松嶋

○松嶋

○松嶋

○松嶋

○松嶋

○松嶋

○松嶋

○松嶋

○松嶋

○松嶋

月入りの松嶋

いづれの水涌ちる井ら

獨行寺月洞山法心和尚

右子天麻院を通院先十陽法院

西宗忠宗の園との山形

松嶋は松葉の秋の御月御思ふ人のこゝろ

と夜をとりて入松嶋を此松嶋ありま

いづれは竹の浦を此竹の浦なり

民の忠教明はる松嶋ありま

松嶋ありま

長吉の飯

長吉の飯ありま

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

いづれの水涌ちる井ら

獨行寺月洞山法心和尚

右子天麻院を通院先十陽法院

西宗忠宗の園との山形

松嶋は松葉の秋の御月御思ふ人のこゝろ

と夜をとりて入松嶋を此松嶋ありま

いづれは竹の浦を此竹の浦なり

民の忠教明はる松嶋ありま

松嶋ありま

長吉の飯

長吉の飯ありま

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

いづれの水涌ちる井ら

獨行寺月洞山法心和尚

右子天麻院を通院先十陽法院

西宗忠宗の園との山形

松嶋は松葉の秋の御月御思ふ人のこゝろ

と夜をとりて入松嶋を此松嶋ありま

いづれは竹の浦を此竹の浦なり

民の忠教明はる松嶋ありま

松嶋ありま

長吉の飯

長吉の飯ありま

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋

松嶋











此の地はむねに松久の松て世にあり  
仙居の人乃ち意をなせし

この地はむねに松久の松て世にあり  
仙居の人乃ち意をなせし

○四合寺  
南に大和の松久の松て世にあり

○白の松現  
○小島の池  
○袋原

○仙居  
○見坂  
○龜乃口

○系所  
我々松久の松て世にあり

○仙居

○見坂

○龜乃口

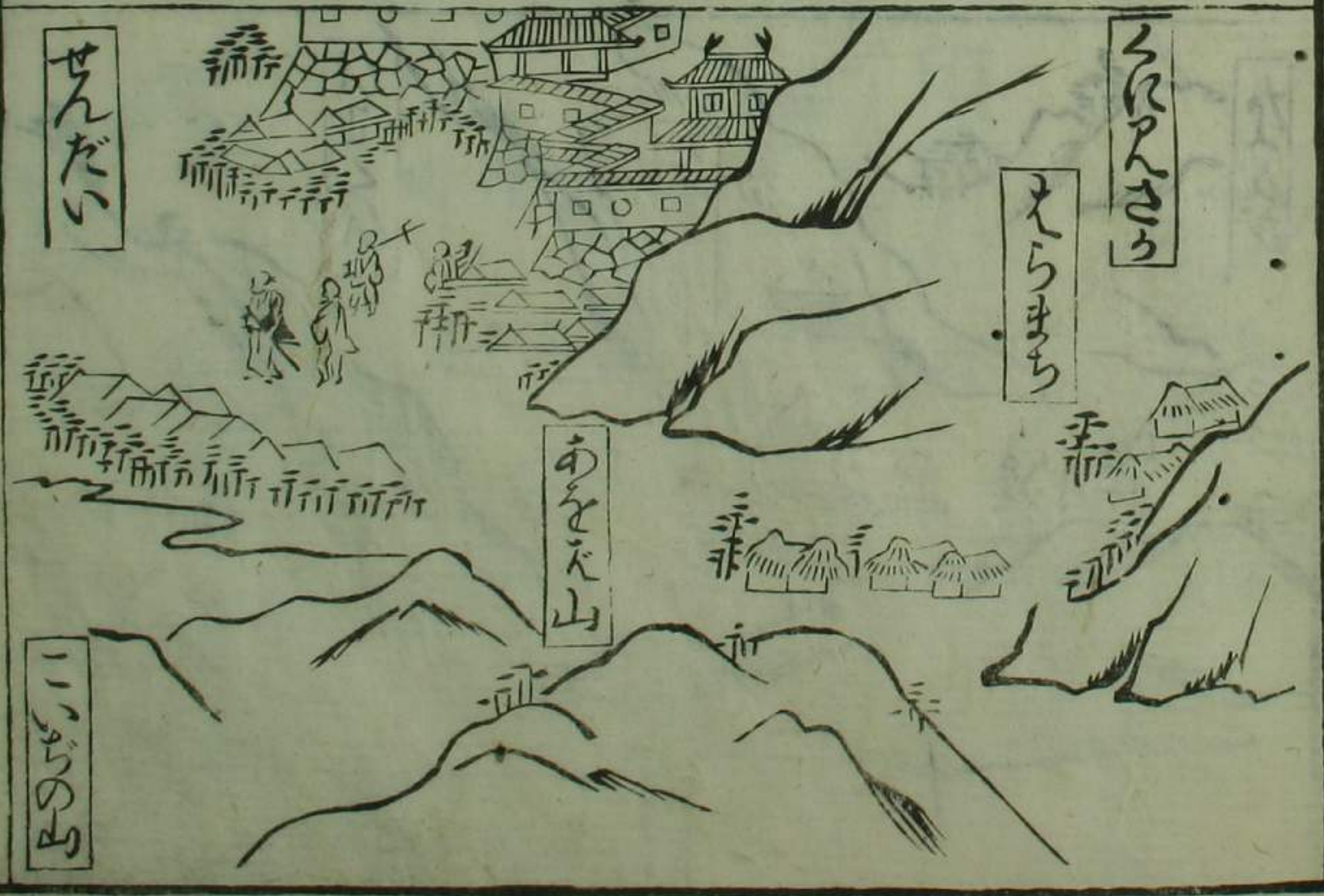
○仙居

○見坂

○龜乃口

○仙居

○見坂





○琵琶音 ○六道辻

名れをうらぶまに人々の軒端より  
古代より極つまてを根さう今  
に唐紙をあらわしけり名の  
たうこれの世也

○五ツ橋 ○清水山

入組一川の而も橋をうつし  
まきあきうかき風系ねも  
しりきり初は八橋名年おき  
了難はよ空橋をよみ橋よ  
めには是又何處にうら

○中田

け里れすくし西よあてりて  
乃表は遠野の玉巻んれ河川  
より 青灰子焼也

○徳野  
○名れ川

むく名れの老女何れもあて  
今に語り傳へしり

法興はまにま名れ川を名れは  
名れ川を名れは隆興の母よあ

○佐海川

家よ赤坂明神をせす

○増田

植杉寺空海の冥寶をある  
八月上人用山の冥地諸本  
けりて風流をれどもおき

○小松島

いあ一八野を名れりうか  
里く村くつてき





○糠塚

いし不神合我の時流れ松を改め  
けひ米塚子なりけり也

○倉見

さしあかす甲お小糸定時の子也  
長徳四年十月十日にいしあて死

○岩

けりし相見海なる

○武隈明神

昔目橋ノ通

○二木乃松

一ニ木乃松と云ふ事元吾何國の  
時敵のちけ極ゆるり較みせ

かご後考義又何はけり松を改め  
人の為と云ふと依て松を掛し松

ハ松ナ

かき

かき

○柳の木

名はしきし木をふみ年松  
松松奥の合我の時け柳の木れ

下はあかす矢三松現にあら

一筆

○憚角

知らぬまふと憚の園に洞とありり  
穿りて馬の窟は東海まはる地憚乃角

○舟廻

いしにむりしり石佛海りて  
大原の作しりいし佛を室に住る

○油掛地

油賣毎日灯明とてありけりあら  
ねんかしらけり一掛て掛しに身

しるはあかす也をわりりい堂をた

り佛とあり

り佛とあり





○大河原

い者の御つりたての山田の城跡  
山守に石段の崩れあり

○薮野山

い山の頂へのうらたてくまの  
よひにひるまのいひあがるも  
つ小野井を仰ぐはら

○金床

○新田文

い山下に白鳥大明神を  
い目録のまのり新田の  
て後白鳥大明神の  
後波中と世を  
つり也今宮に  
つり也今宮に

○子夜

い里むらう白川院の  
女東のり  
くらと世を  
い川中流  
かりり甲川

○大野音系

介徳て何處里も  
あ介て紙の  
○白石  
い不より  
○富田  
津の  
○戸山

い不より  
津の  
○戸山





○依坪川

鞍部坂のふるき信濃の  
時比若首にて人馬とて  
よりかゝるる者

○甲田山

是ハ依坪を司る之子次信之信  
少女直経信之信一むくし合に  
てつめと本儀と移しぬ

○半馬乃根

いぬまのむくしよりあつたれ  
りして生し今に終事なりし

○越川

けり丹仙彦福徳の石佛と

○團見山

いづれか  
いづれか  
いづれか

○賀見山

むくし  
みし  
大木乃枝とていふあり

○伊達大木戸

毎朝飯もいふ  
後多羽儀文治五年九月三日には  
城少計死す家人河田の島是符

○下細岡

本流のふりきりありありとて  
秋とて養ふもあぬ  
つらとて養ふもあぬ

○谷田

いづれか  
秋とて養ふもあぬ  
つらとて養ふもあぬ









○成町の目

是より三本松の隈に村あり  
て物乃わくしきあり

○二本松

是れ今日志本の高より本  
志のりしと見入るる

○舟引山

安達原とて軍村の中に松乃木の  
村きて所れと今とわさる

○安達原

陰奥のありし原の星塚に松乃木の  
分館ありて松乃木の村にあり

○二本松

是より三本松の隈に村あり  
て物乃わくしきあり

○相田

是より三本松の隈に村あり  
て物乃わくしきあり

○成町の目

是より三本松の隈に村あり  
て物乃わくしきあり

○二本松

是れ今日志本の高より本  
志のりしと見入るる

○舟引山

安達原とて軍村の中に松乃木の  
村きて所れと今とわさる

○安達原

陰奥のありし原の星塚に松乃木の  
分館ありて松乃木の村にあり

○二本松

是より三本松の隈に村あり  
て物乃わくしきあり

○小田原

是より三本松の隈に村あり  
て物乃わくしきあり









○大田川  
○文房坂

むすしは里(里)業平(業平)の安(安)に(に)通(通)す  
こゝ(こゝ)も(も)昔(昔)も(も)此(此)の(の)山(山)に(に)あ(あ)り(り)て(て)  
後(後)も(も)此(此)の(の)山(山)に(に)あ(あ)り(り)て(て)は(は)な(な)ら(ら)ず(ず)  
持(持)し(し)て(て)い(い)る(る)ま(ま)は(は)あ(あ)ら(ら)ず(ず)に(に)す(す)  
○化地(化地)

は(は)石(石)地(地)を(を)あ(あ)ら(ら)せ(せ)し(し)る(る)ま(ま)は(は)あ(あ)ら(ら)ず(ず)に(に)す(す)  
焼(焼)出(出)て(て)人(人)は(は)を(を)あ(あ)ら(ら)せ(せ)し(し)る(る)ま(ま)は(は)あ(あ)ら(ら)ず(ず)に(に)す(す)  
通(通)り(り)合(合)せ(せ)し(し)る(る)ま(ま)は(は)あ(あ)ら(ら)ず(ず)に(に)す(す)

○小田川  
○御白  
○花(花)

○白川  
○阿波(阿波)川  
○御白  
○花(花)

り(り)末(末)は(は)あ(あ)ら(ら)ず(ず)に(に)す(す)  
○御白  
○花(花)

○白川  
○草(草)心(心)電(電)  
二(二)条(条)院(院)の(の)比(比)吉(吉)次(次)信(信)子(子)の(の)看(看)金(金)高(高)  
本(本)は(は)あ(あ)ら(ら)ず(ず)に(に)す(す)





○激湍神

三つあり陸奥平野乃隈のり

○白坂

けつ子茶屋ありて名物の餅と賣  
おあぶねは小舟海ほこはんやま  
いあくとらあきまのれがーあ

○及野の塩水

おごりののりいんいんいん  
今に流きり 多しつぎて大あの  
柳子お極してあつれおごー也

○松竹柳

あつきの流る 柳陰志に連てまをる

○菅野

あつきの流る 柳陰志に連てまをる

あつきの流る 柳陰志に連てまをる

○穀川

あつきの流る 柳陰志に連てまをる

あつきの流る 柳陰志に連てまをる

○瑞樹の里

あつきの流る 柳陰志に連てまをる

○室乃八崎

あつきの流る 柳陰志に連てまをる

○里野山

あつきの流る 柳陰志に連てまをる





一目玉鉾

是日先皇御極天日御孫天皇元年  
に周基勝たす建まの御世也

○佐久山

○表連川

けち不淨殿あり

○民家

是より官律のまれば場あり  
あふ津川舟ありあは深まあも  
ありあは名川よの流まに名  
物の鮎ら水と日光川あり

○白沢

は廣野より津のまあるとあむ  
しは子狩もかぐけてま  
らあは色黒ふてあうま  
あはたり

○白津ま

自光山入湯浅なるむとみれ  
み山城の跡を是より津まの津  
齋宮也は所の所並於の風俗  
すくもかりび男やういあやか  
なり東に柳もあはれ物の自津  
とまあや名物の津布也

○宇津明神

山城より女房の松村きて年と  
あはりあは

○菅乃文

里よりつまたに山城のまげの津に  
らあはあはのまげの子細  
まが村菅の福ぐなるあは  
あはかり





○石橋

けりあまのり殿さ

○大平杵現

松林の志げまき山陰みまを後よ  
海通乃みまのあまなり

○小金井

○新田

いまよりひびくたれたて統波山  
又ゆる水空流川もけ枝葉也  
あまをりあまのいさか

○篠波山

はらりあまのいさかある皆野川あそ様  
福もあまのいさかあるあまのいさか

○山

あまのいさかあるあまのいさかあるあまのいさか  
あまのいさかあるあまのいさかあるあまのいさか

○小山

いさか山城の跡まじり建仁二年  
山陰の長尾系系於此謀反小山明政  
是と付く後山子位依のあま

○三林明神

山陰にまき居る三林森に日光乃  
山陰の長尾系系於此謀反小山明政  
あまのいさかあるあまのいさかあるあまのいさか

○麻生

あまのいさかあるあまのいさかあるあまのいさか  
あまのいさかあるあまのいさかあるあまのいさか

○真間田

あまのいさかあるあまのいさかあるあまのいさか  
あまのいさかあるあまのいさかあるあまのいさか

○野





○吉賀  
○桑橋渡

清國をんならむとて  
の巻もあつて

○中田

是より東へ行くと山陰の  
國府老より王首小茶氏徳里  
見多しと云ふ也系は天の  
時日本より東夷後入るに  
に中田ありては後陳の時  
乃後陳より入りたる松橋  
ぬれぬと云ふ事なり  
しては國府老より  
なる事なり  
すべし永代は初めなりと  
云ふ事なり

○新田  
○根子

是より東へ行くと山陰の  
國府老より王首小茶氏徳里  
見多しと云ふ也系は天の  
時日本より東夷後入るに  
に中田ありては後陳の時  
乃後陳より入りたる松橋  
ぬれぬと云ふ事なり  
しては國府老より  
なる事なり  
すべし永代は初めなりと  
云ふ事なり

○猪俣浦

是より東へ行くと山陰の  
國府老より王首小茶氏徳里  
見多しと云ふ也系は天の  
時日本より東夷後入るに  
に中田ありては後陳の時  
乃後陳より入りたる松橋  
ぬれぬと云ふ事なり  
しては國府老より  
なる事なり  
すべし永代は初めなりと  
云ふ事なり

○新田

是より東へ行くと山陰の  
國府老より王首小茶氏徳里  
見多しと云ふ也系は天の  
時日本より東夷後入るに  
に中田ありては後陳の時  
乃後陳より入りたる松橋  
ぬれぬと云ふ事なり  
しては國府老より  
なる事なり  
すべし永代は初めなりと  
云ふ事なり

○戸田

是より東へ行くと山陰の  
國府老より王首小茶氏徳里  
見多しと云ふ也系は天の  
時日本より東夷後入るに  
に中田ありては後陳の時  
乃後陳より入りたる松橋  
ぬれぬと云ふ事なり  
しては國府老より  
なる事なり  
すべし永代は初めなりと  
云ふ事なり





○越前  
越前守殿

○平賀

是の山にひらけた里ありてす  
こ此を平賀と云ふなり  
又平賀一帯は山に蔽はるるなり  
つとむる人々多し

○舟橋

舟橋は舟を以て先きて舟を渡すなり

○伊賀

○伊賀山

伊賀の山は舟橋の南にありてす  
山は高し舟を以て先きて舟を渡すなり

○金巻

○金巻山

○小坂

○隅田川

梅子の山は舟橋の南にありてす  
山は高し舟を以て先きて舟を渡すなり  
水は舟を以て先きて舟を渡すなり

○三郎

○約歌堂

○東

東の山は舟橋の南にありてす  
山は高し舟を以て先きて舟を渡すなり





○山古

この山古やうきせきふけあしり

○向乃見

まき野の向の思ひ果れ松たつとまき野

○後草寺

○千手格

○三千三同堂

後草寺の向の思ひ果れ松たつとまき野

○本願寺

○浄土格

○名越格

名越の山古やうきせきふけあしり

山古の山古やうきせきふけあしり

○山古

○山古

○山古

○山古

○山古

○山古

○山古

○山古

○山古

○山古

○山古

○山古

○山古

○山古

○山古

○山古

○山古

○山古

○山古

○山古

○山古

